

リアルタイムデータの円滑な流通手法検討WGの設置について (案)

- 本検討会における検討対象のうち、動的な運行情報（以下「リアルタイムデータ」という。）について、民間事業者より、
 - ・リアルタイムデータの提供についてのコスト負担や、データ集約、価値向上の困難性などについての指摘があった。

- また、第2回・第3回においても、検討の場を別途設置するなど議論を加速させてはどうか、という意見がそれぞれ日高委員、神田委員よりあった。

- 以上を受け、以下によるWGを設置する。
 1. WGの体制は、機動的な検討を行うため、本検討会の構成員のうち、有識者委員の一部と、データ保有者である交通事業者のうち希望する者。
 2. WGにおいては、参画する者における意見交換や、本検討会構成員に限らず、広くヒアリングを行うことなどにより、交通分野におけるリアルタイムデータの円滑な流通に向けて適切な手法を検討。
 3. WGの内容については率直な意見交換を行う観点から非公開とするが、本検討会に対してWGより適宜検討の内容を報告。
 4. WGの座長は神田委員とし、庶務は、国土交通省総合政策局モビリティサービス推進課において行う。
 5. 上記については設置要綱第7条の規定により、座長が定めるものとする。

リアルタイムデータの円滑な流通手法検討ワーキンググループ
構成員名簿（案）

【有識者】

神田 佑亮	呉工業高等専門学校教授
落合 孝文	渥美坂井法律事務所パートナー弁護士
坂下 哲也	一般財団法人日本情報経済社会推進協会常務理事
日高 洋祐	一般社団法人JCoMaaS理事・事務局長

【民間事業者】 ※オブザーバ

東日本旅客鉄道株式会社
東海旅客鉄道株式会社
西日本旅客鉄道株式会社
小田急電鉄株式会社
東急株式会社（東急電鉄株式会社）
公益社団法人日本バス協会
株式会社みちのりホールディングス
日本航空株式会社
全日本空輸株式会社

【事務局】

国土交通省 総合政策局 モビリティサービス推進課

リアルタイムデータの円滑な流通手法検討WGにおける
検討スケジュール、検討事項（案）

- 年度内については、3回程度開催。
 - ① ご発表：鉄道
意見交換テーマ：技術的な課題
 - ② ご発表：バス
意見交換テーマ：ビジネス上の課題
 - ③ 経路検索事業者との意見交換
意見交換テーマ：体制確立の必要性
- 年度内については、検討会の中間取りまとめに向けて、現状の把握と、論点や課題の抽出を行う。
- たたき台としての論点について、別添があるのではないか。
- 上記の論点をベースに、本WGや検討会に参画頂いている事業者や、それ以外の事業者に広く事務局より書面ヒアリング（※）を実施。
 - ※ WG・検討会参加者、それ以外の地方の鉄道・バス事業者などを想定。

想定される論点について（たたき台）

- ① データの具体的な利活用方法
 - 交通事業者側のデータ利活用に対してのニーズ
 - 経路検索事業者におけるデータ利活用のニーズ
 - 両者のニーズがマッチする部分の技術的課題は何か
 - 両者のニーズがマッチする部分のビジネス上の課題は何か

- ② 技術的課題
 - 交通事業者におけるデータ提供に当たっての技術的な準備状況と課題
 - ・ 遅延、位置、混雑、到着予測等のデータが、機械判読可能な状態で整備されているかどうか
 - ・ 整備されている場合に、自社内で活用されているか
 - ・ さらに、外部配信が可能な基盤が整っている、または整える予定はあるか（データの種類や、配信方法別に）
 - ・ 外部提供に当たっての、コストやそれ以外を含めた社内における課題は何かがあるか

 - 経路検索事業者側における、活用に当たっての課題となる事柄、整備してほしい内容
 - ・ 効率的に多くの事業者に対応するために必要な事柄、例えばサービス提供時のシステムへの組み込み作業効率化のために必要な措置
 - ・ データの種類毎のニーズの大きさ

- ③ ビジネス上の課題
 - 交通事業者におけるデータ提供への考え方
 - 提供されるデータの意味や精度、責任所在

- 交通事業者における現在や将来的な自社システム等を念頭においた費用負担や希望条件
 - ・ 現在自社において検討しているシステム等の開発費用や維持費用
 - ・ 外部にデータレイクが存在した場合の上記費用の低減の可能性
 - ・ さらにそれを踏まえた取引条件

- 経路検索事業者側から、どういう状況であれば、有償によるデータ取得について検討し得るか
 - ・ 費用の積算の方法について（トランザクションに応じて、事業者数に応じて、情報量に応じて、etc）
 - ・ 費用の内容について、各事業者の配信用のシステムや、データレイクの維持管理費用に収まる程度、利用者ニーズが大きい大手事業者のデータあれば一定の収益についてもあり得る、などの考え方について

④ 体制確立の必要性

- 以上の論点、課題や需給の状況を踏まえて、第三者的な組織の活用希望や担ってほしい機能があるか

- 第三者的な組織への国の関与や中立性の濃淡について